



被爆 70 周年の取組

平成 27 年 2 月

広 島 市

目 次

被爆 70 周年の取組について	P 1
-----------------	-----

記念事業 P 4 ~ P33

記念事業一覧表	P 4
1 平和の発信力の強化	P 7
2 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承	P 14
3 スポーツ・文化芸術による平和の体現	P 20
4 復興したまちの魅力の再発見と更なる発展	P 30

まちづくり先導事業 P36 ~ P42

都市構造と三つのエリアの設定、まちづくりの戦略	P 36
1 デルタ市街地でのまちづくりの展開	P 37
2 デルタ周辺部でのまちづくりの展開	P 40
3 中山間地・島しょ部でのまちづくりの展開	P 41
4 全市域でのまちづくりの展開	P 42

被爆 70 周年の取組について

1 趣旨

広島市は、世界に誇れる「まち」の実現に向けて、「活力とにぎわい」、「ワーク・ライフ・バランス」、「平和への思いの共有」という三つの要素の展開によるまちづくりを進めている。その中で、平成 27 年(2015 年)、被爆 70 周年という節目の年を迎えた。

被爆 70 周年は、原爆死没者の慰霊と被爆者の援護、被爆体験の継承という被爆都市ヒロシマの役割を再確認し、決意を新たに「平和への思いの共有」を体現する年とするとともに、これまでのまちづくりの成果を踏まえ、まちづくりの新たな一步を踏み出す年と位置付け、広島の将来に向けた取組を行う。

2 基本方針

趣旨を具現するため、以下の四つに力点をおいて取り組む。

○ 平和都市としての求心力の向上

原爆死没者に対し哀悼の意を表すこと及び被爆者に対する援護を原点としつつ、世界中の人が訪れてみたいと感じ、訪れた人が、被爆の実相に触れ、被爆者の体験や平和への思いを共有するとともに、四季を通じて開催される多彩な行事や街並み、暮らしから、「平和の尊さ」を体感することができる「まち」を目指す。

○ ヒト・モノ・カネを呼び込む都市の魅力の創造

ヒト・モノ・カネを強力かつ持続的に呼び込むことができるよう、都市機能を戦略的に配置するとともに、地域の特性や資源を生かし、新しい魅力を発信する「まち」を目指す。

○ 心通い合う地域コミュニティの形成

自助・共助の精神や幅広い主体の連携・協働の下に、市民が自らの住む地域に愛着と誇りを持ちながら、充実した生活を送り、将来にわたって安心して暮らせる「まち」を目指す。

○ 市民と行政による新たな価値の創出

地方分権時代にふさわしい独創性・推進力ある行政を確立し、市民の力を最大限に生かすことによって、先進的なチャレンジを行い、新たな価値を生み出す「まち」を目指す。

3 取組内容

(1) 記念事業

「平和都市としての求心力の向上」を目的に、被爆 70 周年を記念する事業を次の四つのテーマに沿って実施する。

- ・ 平和の発信力の強化
- ・ 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承
- ・ スポーツ・文化芸術による平和の体現
- ・ 復興したまちの魅力の再発見と更なる発展

(2) まちづくり先導事業

被爆 70 周年を契機に、被爆 100 周年を見据えて目指すべきまちの実現に資する新たな事業等を「まちづくり先導事業」として位置付けて取り組む。

記念事業

記念事業一覧表

区 分	事 業 名	頁
1 平和の発信力の強化		
1	「平和・安全保障事典」の編さん	7
2	日本平和学会春季研究大会・光の肖像展の開催	7
3	ヒロシマ 70 平和セミナーの開催	8
4	「広島 P 2 ウォーカー」推進事業の実施	8
5	平和記念式典の開催	9
6	広島・長崎連携事業「原爆・平和を読み語りつぐ事業」の実施	9
7	平和をテーマにした映画の特集上映	10
8	国連軍縮会議の開催	10
9	折り鶴ポストカードの配付	11
10	旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示等	11
11	平和構築に向けた核軍縮不拡散のためのワークショップの開催	12
12	青少年国際平和未来会議の開催	12
13	中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施	13
2 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承		
14	被爆 70 年史編修発行事業の実施	14
15	「子どもたちへ原爆を語りつぐ本ー総集版・2015ー」の発行関連事業の実施	14
16	被爆関連映像資料のアーカイブ化	15
17	被爆体験記集の作成・配付	15
18	平和記念式典への在外被爆者及び遺族の招へい	16
19	被爆者との交流促進等事業の実施	16
20	原爆死没者慰霊式典の記録（冊子出版）	17
21	ヒロシマ被爆二世医師会議被爆体験継承等事業の実施	17
22	平和記念公園レストハウスの改修	18
23	『「命の水」～ひろしま水道物語～』による被爆体験の伝承	18
24	第 23 回世界スカウトジャンボリー（広島ピースプログラム）の開催支援	19

区 分	事 業 名	頁
3 スポーツ・文化芸術による平和の体現		
25	被爆地広島での「エスキーテニス全国大会」の開催	20
26	ひろしま国際平和マラソンの開催	20
27	広島交響楽団特別事業「摂氏 4000 度からの未来」プロジェクトの実施	21
28	広島の底力！被爆 70 周年復興大写真展の開催	21
29	国連創立 70 周年記念未来につなぐヒロシマ平和コンサートの開催	22
30	日米の懸け橋～Umi Garret～平和の継承コンサートの開催	22
31	現代美術館特別展の開催	23
32	博物館資料を活用した企画展示の開催	23
33	バレエコンサート&眠れる森の美女全幕の開催	24
34	人の心に平和のとりでを築くコンサートの開催	24
35	2015 こどもコーラスフェスティバル in ひろしまの開催	25
36	I PRAY 2015 の開催	25
37	平和の夕べコンサートの開催	26
38	国連合唱団コンサートの開催	26
39	平和のタンゴの開催	27
40	平和記念公園 上田宗箇流茶会の開催	27
41	ヒロシマ・アート・ドキュメント 2015 の開催	28
42	障害者と広島交響楽団とのジョイントコンサート（マーガレットコンサート）の開催	28
43	障害者ピースアート事業の実施	29

区 分	事 業 名	頁
4	復興したまちの魅力の再発見と更なる発展	
44	「広島通り ^{とお} 御祭礼 ^{ごさいれい} 神輿 ^{いみこし} 行事」の復活・継承	30
45	70年目の広島の旅の実施	30
46	復興の都市計画についての企画展の開催	31
47	広島 の 誇りある景観まちづくりプロジェクトの実施	31
48	全国花のまちづくり広島大会の開催	32
49	平和を象徴する緑の保存・継承事業の実施	32
50	猿猴橋復元事業の実施	33

1 平和の発信力の強化

1 「平和・安全保障事典」の編さん	
目的	平和に関する事典は、昭和 60 年に（財）広島平和文化センターによって編さんされ、平成 3 年に新訂版が刊行された「平和事典」のみであることから、その後の国際情勢の変化や平和研究の蓄積を踏まえて、平和に関する情報を広く研究者や市民に提供するため、新たに「平和・安全保障事典」を編さんする。
内容	これまでの我が国の平和研究の蓄積を基に、平和学理論・平和政策、平和の概念、広島・長崎の被爆と核災害、核政策史、福島第一原子力発電所の事故など、最新の問題も含めた平和研究のための重要かつ基礎文献となる事典を編さんする。 刊行後は、平成 27 年に行われる平和関連行事の場で幅広く PR することにより、広島の平和研究の成果を国内外に発信する。
備考	平成 25～26 年度 執筆、編集会議、出版業者との調整 平成 27 年 8 月（予定） 刊行
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課（広島市立大学広島平和研究所）

2 日本平和学会春季研究大会・光の肖像展の開催	
目的	日本平和学会の春季研究大会を広島で開催し、広島平和研究所に蓄積された平和研究の成果を披露することにより、全国の平和研究学界における本市の求心力を高め、被爆都市としての平和発信機能の再認識・再構築を図る。 また、肖像画という芸術作品を通して、学会への参加者や一般来場者に被爆者の思いや願いを共有してもらうため、「光の肖像展」を合同開催する。
内容	1 日本平和学会春季研究大会（2日間） 1 日目 開会、部会、自由論題部会、分科会、総会、基調講演、懇親会 2 日目 部会、分科会、戦後 70 年記念講演、閉会 2 光の肖像展 広島市立大学芸術学部油絵専攻の教員、学生が描いた広島の被爆者やその二世・三世の肖像画を展示
備考	1 日本平和学会春季研究大会 平成 25～26 年度 日本平和学会との調整 平成 27 年 7 月 18 日（土）、19 日（日）開催（会場：アステールプラザ） 2 光の肖像展 開催時期 平成 27 年 7 月 14 日（火）～20 日（月・祝）（予定） 会場 アステールプラザ内市民ギャラリー
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課（広島市立大学広島平和研究所、同大学芸術学部）

3 ヒロシマ 70 平和セミナーの開催	
目的	平和研究に関心のある若者を対象として、特に、平和問題を伝えていくマスメディア関係者、平和行政を進めていく者、将来にわたって平和問題に取り組んでいく学生が広島に集い、それぞれの役割の重要性を認識し進むべき方向について学び考えてもらうため、広島平和研究所において「ヒロシマ 70 平和セミナー」を開催する。
内容	国内外の第一級の専門家を迎えて、平和と核問題の歴史と現状分析に関する 3 日間の集中講義を行うとともに、参加者による意見交換を行う。 また、講義及び意見交換の内容を一冊の本としてまとめ、出版する。 コースごとの講義科目（案） 1 日目 『どれだけ平和になったのか』（過去を振り返る） 基調講演「国際平和と国際協力」 (1) 立憲主義平和の思想と歴史 (2) 国際連盟の平和主義 (3) 国際連合の平和主義 2 日目 『今、何が問題なのか』（現状を分析する） (1) 核兵器の違法性 (2) 兵器ガバナンス (3) 核兵器の現状と被爆体験 (4) 東アジア紛争と海洋法 (5) 日本の安全保障 3 日目 『将来を見据えて』（平和を展望する） (1) 日中関係の現状と課題 (2) 日韓関係の現状と課題 (3) 東アジア共同体創造の課題 (4) グローバル安全保障の課題
備考	開催時期 平成 27 年 9 月 4 日（金）～6 日（日） 会場 広島市立大学サテライトキャンパス（大手町平和ビル）
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課（広島市立大学広島平和研究所）

4 「広島 P 2 ウォーカー」推進事業の実施	
目的	平和記念公園及びその周辺地域を訪れる国内外の方に、平和に関する情報や観光情報を提供している「広島 P 2（ピーツ）ウォーカー ^{※1} 」について、最新技術を活用して内容を充実することにより、平和都市広島の発信力の強化を図る。 ※1 「Peace（平和）」を学び、「Park（公園）」や広島の街をもっと深く知りながら楽しく歩けるようにとの思いで、携帯電話やスマートフォン向けに平和等に関する情報を提供している。
内容	<ul style="list-style-type: none"> AR（Augmented Reality：拡張現実）技術^{※2}を活用した記念碑の説明箇所を増加 コンテンツの英語表記対応数を増加 若年層向けの動画や静止画のコンテンツを新たに追加（学校等で作成した平和学習動画など） AR 技術を活用して、被爆前後の広島の街並み等を再現するコンテンツを新たに追加 ホームページやアプリの画面構成の全面的な見直しを実施 ※2 スマートフォンやタブレット端末をかざすと、何もないはずの場所にあたかも本当に存在するかのごとく、ディスプレイ上に関連する画像や説明文を表示させる技術。
備考	平成 26 年度 追加コンテンツ作成及び公開 平成 27 年 5 月 ホームページ及びアプリのリニューアル公開
担当局・課	企画総務局情報政策部情報政策課

5 平和記念式典の開催	
目的	被爆 70 周年に当たる平和記念式典では、より一層「迎える平和」を推進するため、来賓の充実と市民参画の推進、被爆者の高齢化等に配慮した運営を図り、核兵器廃絶への強い思いを広島から全世界に発信する。
内容	1 来賓の充実 (1) 平和首長会議のリーダー都市の首長への参列案内 (2) 司法機関の長である最高裁判所長官への参列案内 2 市民参画の推進 (1) 未来を担う青少年の招へい 平和首長会議リーダー都市及び姉妹・友好都市の青少年代表 (2) 在外被爆者等の招へい 在外被爆者代表、在外遺族代表 3 被爆者の高齢化等に配慮した運営 全参列席へのテント設置
備考	平和記念式典の開催 平成 27 年 8 月 6 日 (木) 全参列席へのテント設置 平成 26 年度 中央参道石張舗装改良 平成 27 年度～ テント設置 (会場全面、合唱団・吹奏楽団)
担当局・課	市民局市民活動推進課

6 広島・長崎連携事業「原爆・平和を読み語りつぐ事業」の実施	
目的	被爆地である広島市と長崎市の図書館同士が初めて連携し、両市が所蔵する資料の交換展示 (交流特別展) を両市の図書館で開催するとともに、被爆体験継承講座を同時に開催することにより、被爆の実相をより深く伝え、次世代への被爆体験の継承と一層の平和意識の高揚を図る。
内容	1 交流特別展 広島・長崎両市の市立図書館において、それぞれの展示スペースに「ヒロシマ」、「ナガサキ」を伝えるコーナーを設け、両館及び関係機関が収集・保存してきた被爆に関する資料 (図書、雑誌、写真、図など) を展示し、両市の被爆の実相や、復興の様子を伝える。 また、市立図書館全館で、原爆・平和に関する図書 (広島・長崎関連) の展示・貸出を行う。 2 被爆体験継承講座 広島と長崎の被爆の実相を伝え、被爆体験を次世代へ継承していく講座 (全 3 回) を開催する。
備考	広島市での実施概要 1 交流特別展 開催時期 平成 27 年 7 月中旬～8 月末 会 場 中央図書館 2 階 展示ホール 2 被爆体験継承講座 開催時期 平成 27 年 7 月中旬～8 月末 会 場 中央図書館 3 階 セミナー室
担当局・課	市民局生涯学習課 (中央図書館)

7 平和をテーマにした映画の特集上映	
目 的	映像文化ライブラリーにおいて、開館以来収集してきた平和や原爆をテーマにした映画を集中的に上映し、映像を通じて被爆体験を継承し、平和への思いを新たにすることを促進する。
内 容	平和や原爆をテーマにした名作映画の上映（約 30 本） 上映予定作品 「原爆の子」、「ひろしま」、「第五福竜丸」、「ひめゆりの塔」、「愛と死の記録」、「私は貝になりたい」、「二十四の瞳」、「日本のいちばん長い日」、「戦争と人間」三部作、「千羽づる」、「さくら隊散る」、「火垂るの墓」、「八月の狂詩曲」など
備 考	実施時期 平成 27 年 6 月～8 月 会 場 映像文化ライブラリー 2 階ホール
担当局・課	市民局生涯学習課（映像文化ライブラリー）

8 国連軍縮会議の開催	
目 的	国連軍縮会議を本市で開催し、関係機関と連携しながら、同会議参加のために本市を訪れる各国の為政者や政府高官等に核兵器廃絶を願う広島のを思いを伝え、核兵器廃絶の実現に向けた重要なプロセスとする。
内 容	世界各国の為政者、政府高官、軍縮問題の専門家等が軍縮・安全保障等に関する議論を行う国連軍縮会議を開催する。 その際、平和記念資料館の見学や被爆体験証言の聴講等、被爆の実相を伝えるプログラムを実施するとともに、会議参加者に対し広島を PR する。
備 考	開催時期 平成 27 年 8 月 26 日（水）～28 日（金） 場 所 広島市内
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課 2020 ビジョン推進担当

9 折り鶴ポストカードの配付	
目的	折り鶴再生紙を使用したポストカードを配付し、平和を願うメッセージの発信に活用してもらうことにより、折り鶴に託された思いの昇華と平和への思いの共有を図る。
内容	折り鶴再生紙を使用したポストカードを、平和記念資料館の入館者に無償配付し、平和を願うメッセージの発信に活用してもらう。
備考	平成 27 年 4 月～ 資料館入館者へのポストカードの配付
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課被爆体験継承担当

10 旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示等	
目的	平和記念資料館以外の場所で被爆の実相に触れる機会を提供することにより、より多くの人に被爆者の体験や平和への思いを共有してもらう。
内容	<p>1 旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示 平和記念資料館の再整備によって縮小している資料館の展示を補完するため、旧日本銀行広島支店で、被爆資料や「市民が描いた原爆の絵」、米国国立公文書館所蔵写真などの資料館収蔵品の展示を行う。</p> <p>2 市内中心部の平和関連展示施設等の紹介</p> <p>(1) 市内中心部のマップに平和関連展示施設等を示した印刷物の作成・配付 市内中心部に所在する平和関連の展示施設や被爆建物、被爆樹木等を紹介するため、マップにそれらの概要・巡回ルート等を示した印刷物を、折り鶴再生紙を用いて作成し、配付する。</p> <p>(2) 「ひろしま地図ナビ」での平和関連展示施設等の紹介 本市ホームページ「ひろしま地図ナビ」を活用し、平和関連の展示施設や被爆建物、被爆樹木等の情報を日本語と英語で掲載する。</p>
備考	平成 27 年 7 月中旬 旧日本銀行広島支店での展示 (市内中心部の平和関連展示施設等の紹介の時期については調整中)
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課被爆体験継承担当

11 平和構築に向けた核軍縮不拡散のためのワークショップの開催	
目 的	<p>国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所*が主催する、ヒロシマの経験を生かした平和構築に向けた核軍縮不拡散のためのワークショップへの支援を行い、「迎える平和」や国際協力のより一層の推進を図る。</p> <p>※ 開発途上国の経済、社会開発、平和及び安全保障などの分野における政府関係者等に向けた研修等を企画・遂行する国連機関であり、平成 15 年に中四国地方で初の国連機関として本市に開設された。</p>
内 容	<p>東南アジア 5 か国（マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア、ミャンマー）の軍縮を担当している省庁の若手実務者等を集め、世界及び東南アジアにおける核軍縮不拡散の状況を学ぶとともに、核軍縮不拡散に貢献するための具体的な外交交渉スキルを習得するためのワークショップを開催する。</p> <p>1 世界情勢及び地域情勢の把握 現在の核軍縮不拡散に係る世界及び東南アジア地域の状況、世論、課題、展望の把握</p> <p>2 核軍縮不拡散に貢献する交渉スキルの習得 ニーズアセスメント（何が必要であるか評価すること）や行動計画書作成の手法など</p>
備 考	<p>開催時期 平成 27 年 6 月 8 日（月）～12 日（金）（予定）</p> <p>会 場 未定</p>
担当局・課	市民局国際平和推進部国際交流課

12 青少年国際平和未来会議の開催	
目 的	<p>青少年国際平和未来会議*を開催することにより、青少年の世界平和への意識を高めるとともに、国際社会に貢献することができるグローバル人材の育成を目指す。</p> <p>また、併せて、同会議に参加した青少年をつなぐネットワークの構築を図る。</p> <p>※ 世界の国々の青少年と本市の青少年が一堂に会し、世界平和について意見を交換し、未来に向けた取組について話し合い、全世界に平和のメッセージを発信するため、被爆 60 周年以来、本市と姉妹・友好都市等において毎年交互に開催しているもの。</p>
内 容	<p>1 記念プログラム 過去 10 年間の本会議への参加者に呼びかけ、本会議参加後に各自が行ってきた活動を報告してもらい、平和貢献についてのディスカッションを行い、今後、各自がなすべき活動について共に考え、意見交換する。</p> <p>2 継続プログラム 姉妹・友好都市等と本市の青少年が本市に集い、被爆の実相を学ぶとともに、各都市で行われている平和貢献活動等について情報交換し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて話し合い、ヒロシマアピールとしてまとめて発表する。</p>
備 考	<p>平成 27 年 8 月 4 日（火）～14 日（金） 10 泊 11 日</p> <p>主な活動 6 日（木）平和記念式典参列、7 日（金）平和記念資料館見学、11 日（火）過去 10 年間の参加者によるプレゼンテーション など</p>
担当局・課	教育委員会青少年育成部育成課

13 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施	
目的	本市が進める平和教育、英語教育の成果を生かし、中学生が広島を訪れた海外の人々に対して英語でメッセージを伝える活動を通して、平和への意識の高揚や英語力の向上を図るとともに、グローバル人材の育成につなげる。
内容	<p>中学3年生の中からメッセージ発信者を選考し、8月6日に平和記念公園において、広島を訪れた海外の人々に対して、英語で平和へのメッセージを伝える活動を行う。</p> <p>活動内容 平和記念式典に参列する駐日大使や海外からの一般参列者へのメッセージ発信 「ひろしま子ども平和の集い」でのメッセージ発信 「青少年国際平和未来会議」でのメッセージ発信</p>
備考	平成26年度 各中学校への事業周知、文案募集、メッセージ発信者の選考 平成27年度 研修会実施、事業実施（8月6日（木））、まとめ作成
担当局・課	教育委員会学校教育部指導第二課